



創立 昭和34.6.9 承認 昭和34.6.27
事務局 鶴岡市馬場町 鶴岡商工会議所内
電話 0235 (24) 7711
例会場 鶴岡市馬場町 産業会館 5階ホール
例会日 毎週火曜日 午後 12:30~1:30

第1487回例会 会報

幹事 若生恒吉
会長 市川輝雄
クラブ奉仕 佐藤昇

ロータリーに活力を—
あなたの活力を
PUT LIFE INTO ROTARY—
YOUR LIFE

1988 (昭 63.12.13) 天候 曇

職業奉仕 佐藤 衛 社会奉仕 迎田 稔
国際奉仕 松田士郎 青少年奉仕 碓水節雄

出席報告：会員 83名 出席 53名

出席率 70.59% 前回出席率 69.12%
修正出席 67名 確定出席率 83.82%

会長報告

市川輝雄君

○47年前の12月8日、私はまだ国民学校の生徒でしたが、昨日の事のように思い出すことが出来ます。A B C D包囲陣にどうにも身動きがならぬ日本の鬱屈したものが、一度に吹き飛んだかのようなあの日の真珠湾攻撃。アメリカ太平洋艦隊全滅の写真を喰い入るように見、大本営発表をラジオにしがみついて聞いた開戦の日……。歳月はすべてを忘却のかたに押し流し、昭和という年号さえ悲しくも明滅しています。

世界がいかに変貌し、奥の細道と云われた庄内が高速交通時代に突入しようとも、12月8日、8月15日のメモリアルデーを忘れる事は出来ません。なんととなれば生きている限り歴史の一コマの生証人だからです。

○6日、地元出身中村兄弟の南高100周年記念リサイタルに行ってみました。兄の洋氏のチェロの渋い演奏も心の洗われる様な出来栄えでしたが、妹のゆかりさんのヴァイオリンが予想していた以上によかったと思いました。

ふくよかまで長身のゆかりさんが弾く「G線上のアリア」の叙情的な旋律。敬虔な祈りにも似たきらめくような「アヴェマリア」、「タイスの冥想曲」の心にしみる繊細なテクニク。兄妹にとって郷里の人々の温かさに包まれた至福のコンサートでした。

○9日、年末恒例である鶴岡西R.CのXマスパーティに招待され出席しました。和気あいあいとして多勢の家族も参加し盛会でした。欧米では“無宗教な人は共に語りあえる友ではない”と、相手にされないそうです。

「真実諦ふり思い出す」という詩がありますが、シングルベルの鈴の音に薄れていた信仰心を呼びおこすのもクリスマスの使命かも知れません。季節を彩どる行事の一つとして暮しに定着したXマスは、キリスト教だけでなく、神仏も含めた広い意味の宗教祭であると見立てるべきではないでしょうか。

幹事報告

若生恒吉君

○例会変更のお知らせ

ロータリアン日記 ○月○日

幹事を退任して

87~88年度吉野会長をはじめ役員、会員各位の温い友情に支えられ幹事を務める機会を与えていただきました。今は只只“有難い”と云う感謝の気持ちのみ残って居ります。

振り返ってみますと、県内に4つのクラブが誕生し、その時時設立総会、認証状伝達式と丁重な案内に答えるべく出席者の取りまとめや地区内だけでも一斉に周年式典が重なり、これに参加するメンバーの選任と云うより依頼。地区協議会、JGFへの参加は当然としても取りまとめる時、心よく応じてくれた会員諸氏には心の中で土下座して感謝をしていました。前述の設立総会ぐらいは、色々問題があるけど万難を排して合同で挙行するのも考えるべきだと思いました。鶴岡R.Cは地区内でも古いクラブと云うこともあり、先輩会員が長い間、種々の会合や活動の中で交際がある訳で断り切れな

いこともあり、今後の運営の問題ではないでしょうか。ポリオパス拠出金問題も突発的なものでした。確かにロータリーとして立派な運動ですが、そのプロセスの一つである拠出金の集め方で再々変更があり問題になりました。

ロータリー活動は地区、日本支部、R.Iのものではなく、その地域に根ざした各クラブのしかも各メンバーの一手一投足にかかっており、これを見失っては発展しないと思います。

吉野会長の下で二番手、三番手の仕事をする機会を与えていただきましたが、これまで人を補佐するような経験の余り無った私にとって、人生でこの一年は得難い経験をさせていただきました。毎日毎日、リーダーとしての“忍”“決断力”“人間性”を家庭教師を頼んだ如き指導を賜った吉野会長に厚く御礼を申し上げます。

最近では会社でお茶を差し出してくれる女子社員に対し、一杯のお茶を出す迄の気くばり、苦勞を考えるようになってきました。クラブの事務局を影で支える斎藤とも子さんのご苦勞も身にします。 板垣廣志

・酒田R.C

12月21日(水) クリスマス家族会の為
日 時 12月21日 6時点鐘
場 所 ホテルリッチ酒田
登録料 5,000円

・酒田中央R.C

12月23日(金) クリスマス家族会の為
日 時 12月18日(日) 4時点鐘
場 所 平安閣
登録料 6,000円

・温海R.C

12月19日(月) クリスマス家族会の為
日 時 12月19日 5時30分点鐘
場 所 温海グランドホテル
登録料 6,000円

12月26日の例会は年越しそば例会

・遊佐R.C

12月20日(火) クリスマス家族会の為
日 時 12月20日 6時30分点鐘
場 所 遊佐商工会
登録料 5,000円

1月3日の例会は休会

1月10日は新年会

場 所 ぼ ん
登録料 3,000円

・鶴岡東R.C

12月21日(金) クリスマス家族会の為
日 時 12月21日 6時30分点鐘
場 所 マリカ西館 3階市民ホール
登録料 6,000円

○252地区大会記念ゴルフ大会の御案内

日 時 3月31日(金) 午前9時スタート
場 所 表蔵王国際カントリー
参加料 5,000円

申込〆切は1月31日まで、事務局斎藤さんまで。

○会報到着 酒田中央R.C

○来週の例会の場所、時間変更

場 所 東京第一ホテル鶴岡 鶴の間
時 間 6時点鐘

○次の方が新会員として推薦され、所定の手続きを経て氏名発表します。入会反対の方は書面で反対理由記入の上、理事会(幹事)に10日以内にご送付下さい。

嶺岸禮三さん 富士印刷㈱取締役 印刷

ゲストスピーチ

国際経済と日本の役割

鶴岡税務署長 後藤真一氏



現在我が国経済は、おそらく数年前なら経済政策の立案担当者を含め専門家が誰も予想しえなかったであろうほどの好況を呈し、63年も約5%の実質成長率が見込まれている。

その要因としては、経済白書が指摘しているような

以下の点が考えられるが、偶然的側面もあり、今後の施策運営は世界情勢をよく見極めながら進めていく必要がある。特に80年代の国際社会の動向が、長期的な構造的変化を背景にしていることに格別の注意を払い、我が国の役割を検討していく姿勢が大切であろう。

昨年約5%の経済成長を記録した要因として、経済白書は次のものを挙げている。

第一に、円高および原油価格低下のメリットが波及し輸出産業のデメリットを上回った。

第二に、在庫・設備の調整が進み、最終需要の増加に対する企業投資の即応体制が整っていた。

第三に、2.5%の公定歩合に象徴される金融緩和の効果があつた。

第四に、62年5月末決定の6兆円規模の緊急経済対策により企業家の先行き見通しが好転した。

第五に、高級化、高付加価値の新製品に対する消費意欲及び企業の開発販売意欲の高まりがあつた。

意図したものと意図せざるものが相俟って好況に結びついているが、政府の緊急経済対策自体がそもそも対外的不均衡の是正に主眼をおいたものとして

策定されたことが示す通り、現在の好況は良好な対外関係なくしては維持しえない。近年何よりも外需中心の経済から内需主導型への構造調整を図る必要性が深く認識レベルで定着してきたことがもつ意義は大きい。

61年4月に発表された「前川レポート」が正にこの認識の転換に多大な影響を及ぼした。政府においても国際公約ともなった同レポートを踏まえて住宅投資を中心とする内需拡大策が実施に移され、マル優廃止も同レポートの貯蓄優遇税制見直しの提唱に沿う側面をもっていた。更に竹下政権発足後に策定され本年5月に発表された新経済運営5カ年計画「世界とともに生きる日本」もまた内需主導型経済の定着を図る方向を打ち出している。

認識レベルの転換を現実の経済構造の調整として実現していくことは決して容易なことではないが、常に国際社会の動向を注視してその大きな流れを把握していることが大前提となる。従来とかく断続的に繰り返す貿易摩擦とそれへの個別対応が問題となってきたが、80年代半ば以降、より長期的観点から戦後の世界秩序を支えてきた米国の覇権（ヘゲモニー）の衰退の文脈の中で個別問題を論じることが流行となっている。現象面では米国が債務国に転落し、また85年のプラザ合意以後、為替レートを巡って先進各国の政策協調努力が行われ続けている。確かに85年以後、それまで自由主義経済を信奉し、市場介入を極力嫌ってドル高を容認してきたさしもの米国も、ベーカー財務長官登場とともに政策スタンスの大転換を余儀なくされた。こうした動きは果して覇権交替といった分析視角で説明し尽せるものなのであろうか。

米国の学者から、こうした変化を背景とした新たな日米関係の構築に向け、様々な概念が提唱されている。例えば、ズビグニュー・ブレジンスキー（カーター政権時の国家安全保障担当大統領補佐官）のアメリッポン構想、フレッド・バーグステン（国際経済研究所長）のバイゲモニー構想などが挙げられようが、何とんでも昨今論壇を賑しているのがベストセラー『大国の興亡』を著したエール大学教授ポール・ケネディである。同教授は経済力の変化と軍事コストの関係を切り口として16世紀以降の西欧列強の消長を跡づけている。ここで問題とすべきは歴史の学術書としての同書の評価ではなく、米国防

府部内での読まれ方である。米国の衰退を防ぐ方策として軍事力を含めた同盟国への負担の分担（バードンシェアリング）を図る論拠として同書は多大注目を集めた。そしてこの負担分担の問題は、ブッシュ新政権の下で具体的課題として浮上してくることが予想されているのである。

確かに我が国は今後一層の世界への貢献を求められ、重要な役割を積極的に担っていくべき立場にあるが、私個人の考えとしては、以上の文脈での負担分担論は余りに旧弊に囚われたものに思えてならない。即ち、覇権交替論が論じられる際に20世紀後半の新たな国際関係の動きが十分とり込まれていないため、そこから派生する負担分担論にも自ずと限界があるようである。

現在の国家間関係の原型は、17世紀の西欧に求められるが、その基本概念は以下の3点に要約できるとされる。

第一に、軍事力を中心とする国力（パワー）が国家間の関係で最重要かつ効果的手段である。

第二に、国内の諸事象は軍事を最優先事項とするピラミッド型のパターンに整理され、国家は整合性のとれた政治単位である。

第三に、国家間の政治関係が外交官による交渉を原則とする一元的なものである。

今日においてもこれらの概念は依然として一定の妥当性を維持しているが、軍事、運輸、通信等の面での科学技術の飛躍的進歩が新たな構造的変化をもたらしてきたことを無視しえない。

米国の覇権後退とされる影響力の低下現象も、18～19世紀の西欧国家の盛衰とは大きく次元を異にして、実はこうした構造的変化と密接にかかわっている。

米国ハーバート大学のスタンレイ・ホフマン教授は、第2次大戦後顕在化した国際社会の構造的変化を2点に要約している。

第一に、絶大な破壊力をもつ核兵器の登場は、使用が事実上不可能なほど拘束されるため、逆に国家目標を達成する手段としての軍事力の有効性を低下せしめる状況を招来した（核の手詰まり状況）。

第二に、国境を超えるヒト、モノ、カネ、情報、サービスの流れが急増し、各国の国内社会同士が緊密に結びつく状態となり、国内政策の実施に際しても対外的配慮が必要となり、場合によっては国家主

権へも限定が課される状況が現出しつつある（相互依存の深化）。

先進国間においては国家そのものが、その空間的拡がり、及び政策決定メカニズムの両面から、有効性を問われ、試練の時を迎えているのである。

以上の点を踏まえれば、米国及び世界経済が直面している問題は米国の経済力の衰退を主因として発生していると捉えるよりも、国際社会の構造的変化の下で依然として世界経済の2割を占める米国と他の先進諸国との新たな調整枠組みの模索過程として捉えるべきものではなからうか。

現在、米国の財政赤字削減が世界経済の最重要課題として注目されているが、世界一の経済力を誇る国家が従来純粋に国内問題とされてきた財政運営に関して国際的な協調を実行しうるかどうかという意味から、この問題が正に一連の政策協調努力による枠組みの試金石となっている。また、1992年の市場統合を目指すECの動向、米加自由貿易協定締結といった従来の多国間主義に基づく国際貿易体制の理念からは異質とも思われる地域内・2国間国家関係確立の動きも、かかる視点を欠いては全体像を把握しがたい。

我が国は、その経済を安定的に運営していくためにも、益々積極的に国際社会で重要な役割を演じていくことが求められているが、それは伝統的な国家間関係のみならず、国際社会の構造的変化をも視野に入れた協調体制の確立・発展に貢献すべきものでなければならないであろう。

※ 文中意見にわたる部分は個人的見解であることをお断わりします。

委員会報告

親睦活動委員会

石川寿男君

○12月奥様誕生

迎田恵美子様、山本幸子様

庄内分区代理報告

新穂光一郎君

○国際ロータリー第253地区予定（1989年1月～6月）

1月23日～26日 規定審議会（浜田PG出席）

<シンガポール>

2月4日（土） 顧問審議会

第4回諮問委員会 <福島市>

3月25日（土） I.C.M（ガバナーノミニー歓送会 <酒田市>

4月8日（土） 村上GN国際協議会へ出発

<アリゾナ州 フェニックス>

4月15日（土） ローターアクト年次大会

16日（日） ” <いわき市>

5月14日（日） 会長エレクト研修セミナー
次期分区代理会議 <山形市>

6月3日（土） 顧問審議会・第6回諮問委員会
地区協議会 <酒田市>

6月4日（日） ” < ” >

6月17日（土） 新旧分区代理会議<いわき市>

7月3日（月） ローター財産試験予定

○青少年海外短期派遣実施要項

・趣旨 国際情勢の激変と多様化に対処し、地区内各IAC・RACの一層の充実と向上支援のため、年次計画の一環として青少年海外派遣の研修を開催する。

・派遣日 1989年3月8日（水）～17日（金）

・視察訪問先 国際ロータリー第347地区

・日程（予定） 3月8日（水） 各地より集合

3月9日（木） 出国

3月17日（金） 帰国

・宿泊先 ホームステイ

・参加対象 RAC6名、IAC・顧問教師4名
関係ロータリー委員2名

スマイル

新穂光一郎君 去る10日、いわき市に参りガバナーから心温まる歓待を受け、帰路に圧雪状態の月山道路をノーマルタイヤで危険に脅えながらも、佐藤元伸さんの手腕で無事帰宅。

斎藤 昭君 台中港区から連絡があり、30周年記念に多数参加したい。スケジュールが決まり次第当地に送るという連絡がありました。

佐藤 衛君 娘が来春山形大を卒業予定で、お陰様でテレビU山形に就職が内定。末子で子供の教育も一區別となり、家族一同嬉んでおります。

荘司俊治君 去る10日（土）、荘内日報で第14回庄内歳末助け合いの芸能大会を実施。昼夜共に大盛会でした。収益の一部を鶴岡市共同募金会に寄与の予定。

ビジター

鶴岡東R.C 阿部興二君